

郡山市セーフコミュニティ推進協議会

こどもの安全対策委員会 活動報告



報告者 委員長 吾妻 利雄

こどもの安全対策委員会の構成

【市民団体等 6人】

民生児童委員協議会連合会(1人)
PTA連合会(1人)
青少年健全育成推進協議会(1人)
子ども会育成連絡協議会(1人)
観光交流振興公社(1人)
郡山市子ども子育て支援企業組合(1人)

合計 15人

【行政 4人】

こども家庭支援課(1人)
保育課(1人)
教育委員会総務課(1人)
学校教育推進課(1人)

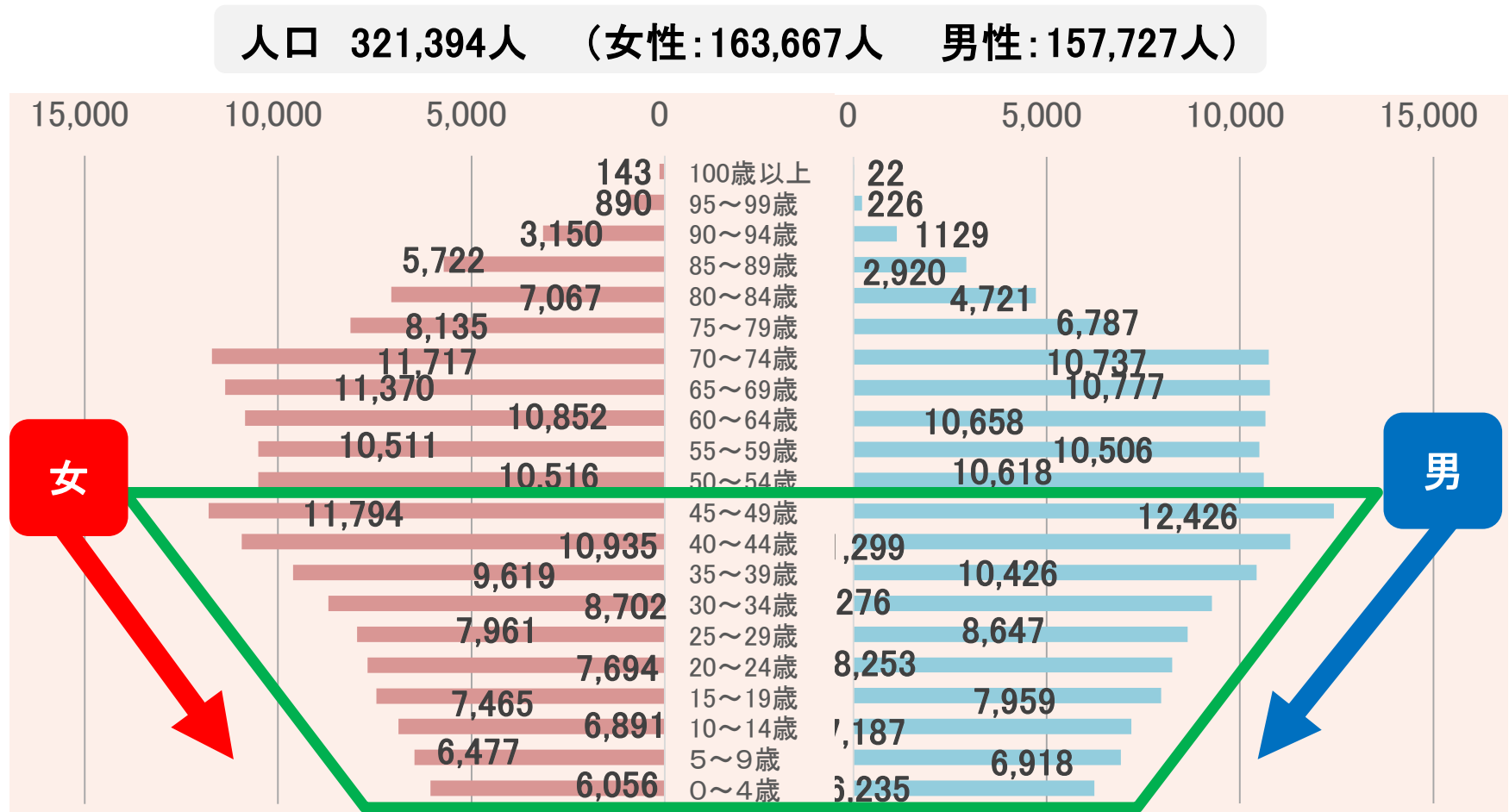
【保育・教育関係者 5人】

認可保育所長会(1人)
民間認可保育所連絡会(1人)
私立保育園連絡協議会(1人)
私立幼稚園・認定こども園連合会(1人)
小学校長会(1人)

こどもの安全対策委員会を設置した背景

背景① こどもの数が年々減少している。

図1 郡山市の年齢階層別人口(2021.1.1現在)



出典:郡山市住民基本台帳

背景② 新生児～乳幼児の救急搬送数が横ばい

図2 全国・市の人口10万人当たりの救急搬送件数(0-6歳、7-17歳)

区分	年代	件数				
		2016	2017	2018	2019	2020
全 国	乳幼児(0-6歳)	1,163件	1,133件	1,111件	1,082件	-
	少年(7-17歳)	630件	626件	583件	557件	-
郡山市	乳幼児(0-6歳)	805件	816件	910件	819件	602件
	少年(7-17歳)	629件	603件	486件	622件	417件

全国を下回っているが
横ばい傾向

コロナの影響?

出典: 消防庁 平成28-令和2年救急搬送データ

背景③ 新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。

単位:人

図3-1 救急搬送された子どものけがや事故の種別

	1位		2位		3位		4位		5位	
新生児 ～乳幼児 (0～6歳)	一般負傷	787	交通事故	240	加害	5	水難	2	運動競技	1
少年 (7～17歳)	交通事故	914	運動競技	465	一般負傷	437	自損行為	37	加害	9

図3-2 子どもの緊急搬送場所

	1位		2位		3位		4位		5位	
新生児 ～乳幼児 (0～6歳)	住宅	613	公衆	227	道路	204	仕事場	1	その他	16
少年 (7～17歳)	道路	920	公衆	772	住宅	178	仕事場	2	その他	16

出典:郡山地方広域消防組合 平成26-令和2年救急搬送データ(国表)

これまでの活動経過

回	開催日	目的	活動概要	
24	2018年	5月22日	認証後の取組	・未実施の取組の実施方法について検討
25		7月24日	地域診断について	・地域診断で収集したいデータについて協議
26		10月3日		・地域診断の調査項目の確定
27		11月28日	虐待防止について	・分科会として虐待防止の取組について検討
28	2019年	1月22日	SCフェスタの説明	・SCフェスタの概要説明
29		5月14日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り
30		6月7日	具体的対策の検討	・交通事故防止、通学時の安全について検討
31		7月17日		
32		9月6日	具体的取組の検討	・児童虐待防止法の改正を踏まえ取組の見直し
33		11月26日	アンケート調査	・SCに関するアンケート調査の項目検討
34	2020年	1月21日	具体的対策の検討	・事故防止モデルルームの周知活動の検討
35		7月7日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り
36		10月27日	具体的対策の検討	・現在行われている取組の確認
37		11月25日	具体的対策の検討	・家庭内の事故防止について周知方法の検討

回	開催日	目的	活動概要
38	1月26日	具体的対策の検討	・前回の検討内容を反映した家庭内の事故防止についての周知活動とアンケート調査の検討
39	6月2日	今まで取組の説明	・新メンバーを迎えての活動の振り返り ・事前指導に向けたスケジュール確認
40	6月29日	効果検証	・地域診断の結果及び外傷サーベイランス委員会の意見について確認 ・家庭内の事故防止についての結果報告
41	7月27日	具体的対策の検討	・児童虐待防止の取組内容の検討 ・交通事故防止の周知活動の検討
42	8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導資料検討 ・効果検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止の周知活動アンケートの確認 ・上記活動のアンケート結果報告 ・事前指導用資料の内容確認及び修正 (書面開催)
43	9月28日		

2021年

データに基づく客観的な課題

今までのセーフコミュニティ活動の中で見えたこと

特徴①

新生児～乳幼児の救急搬送数が横ばい。(2014-2020)

(図2より)

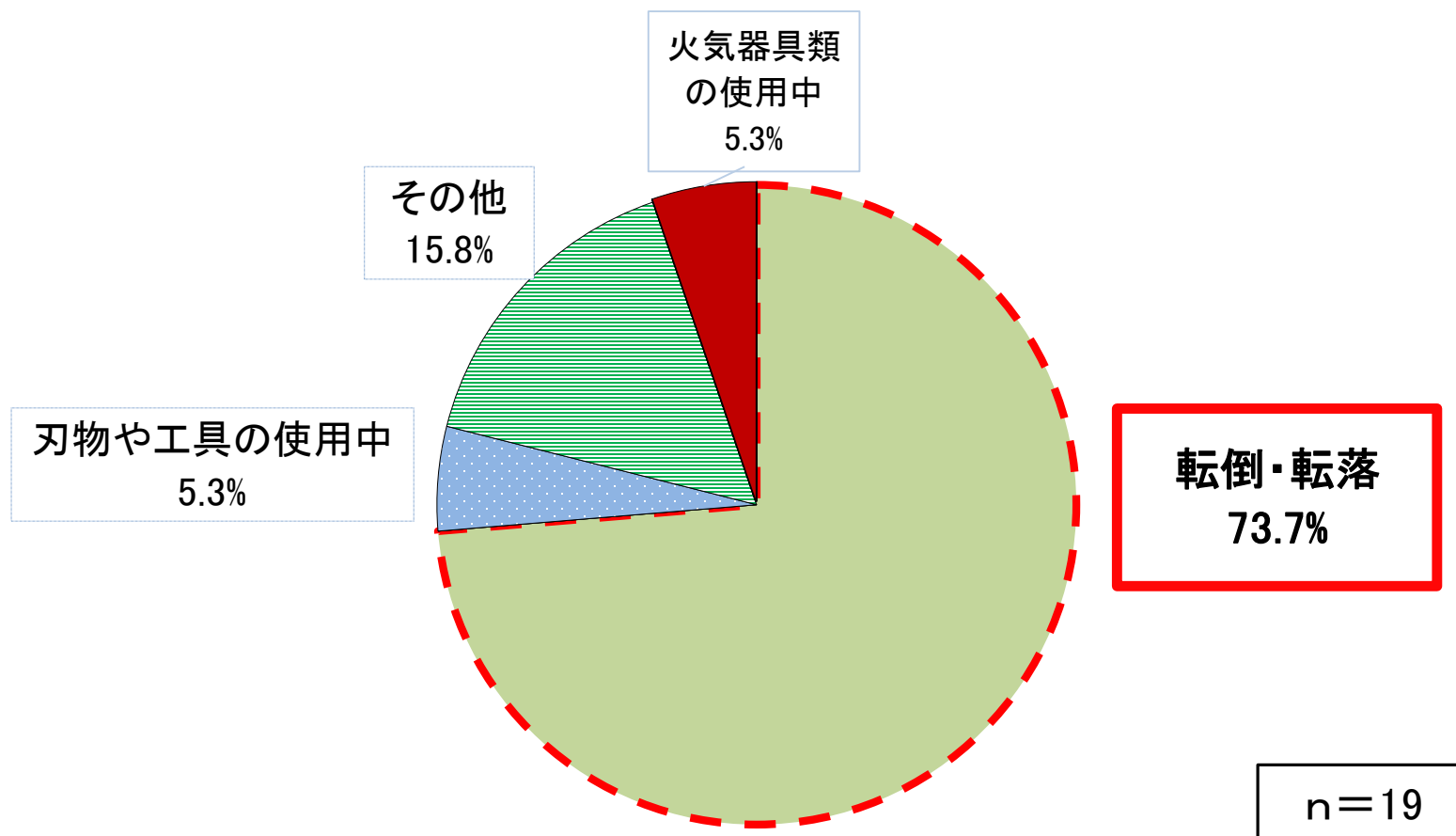
特徴②

新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。(負傷の傾向変わらず)

(図3-1,3-2より)

特徴③ 新生児-乳幼児の緊急搬送の傾向

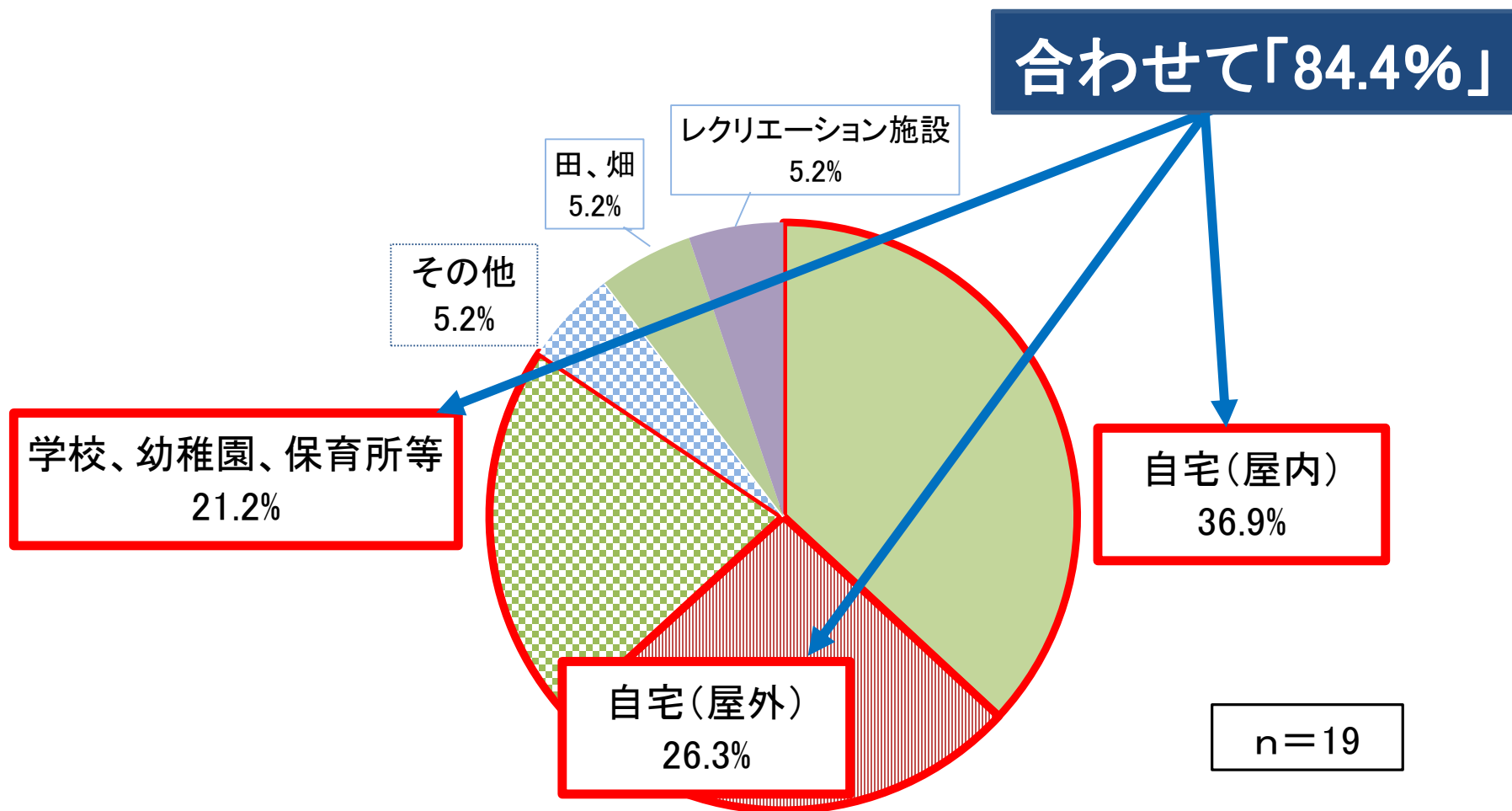
図4 乳幼児のけがの原因別件数割合



出典：第4回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査

特徴④ 少年の緊急搬送の傾向

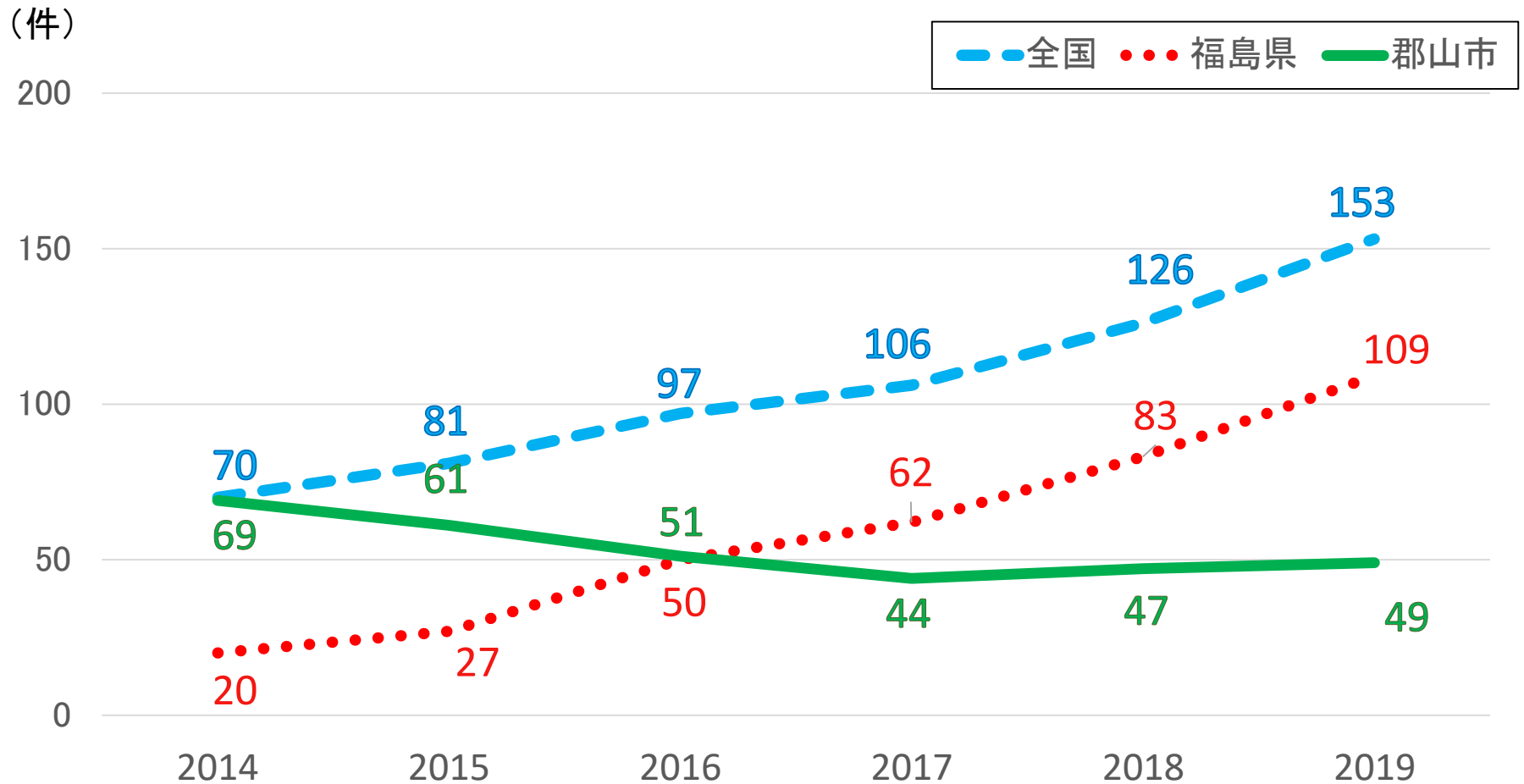
図5 乳幼児がけがをした場所の件数割合



出典：第4回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査

特徴⑤ 郡山市への児童虐待の相談件数は横ばいから減少傾向

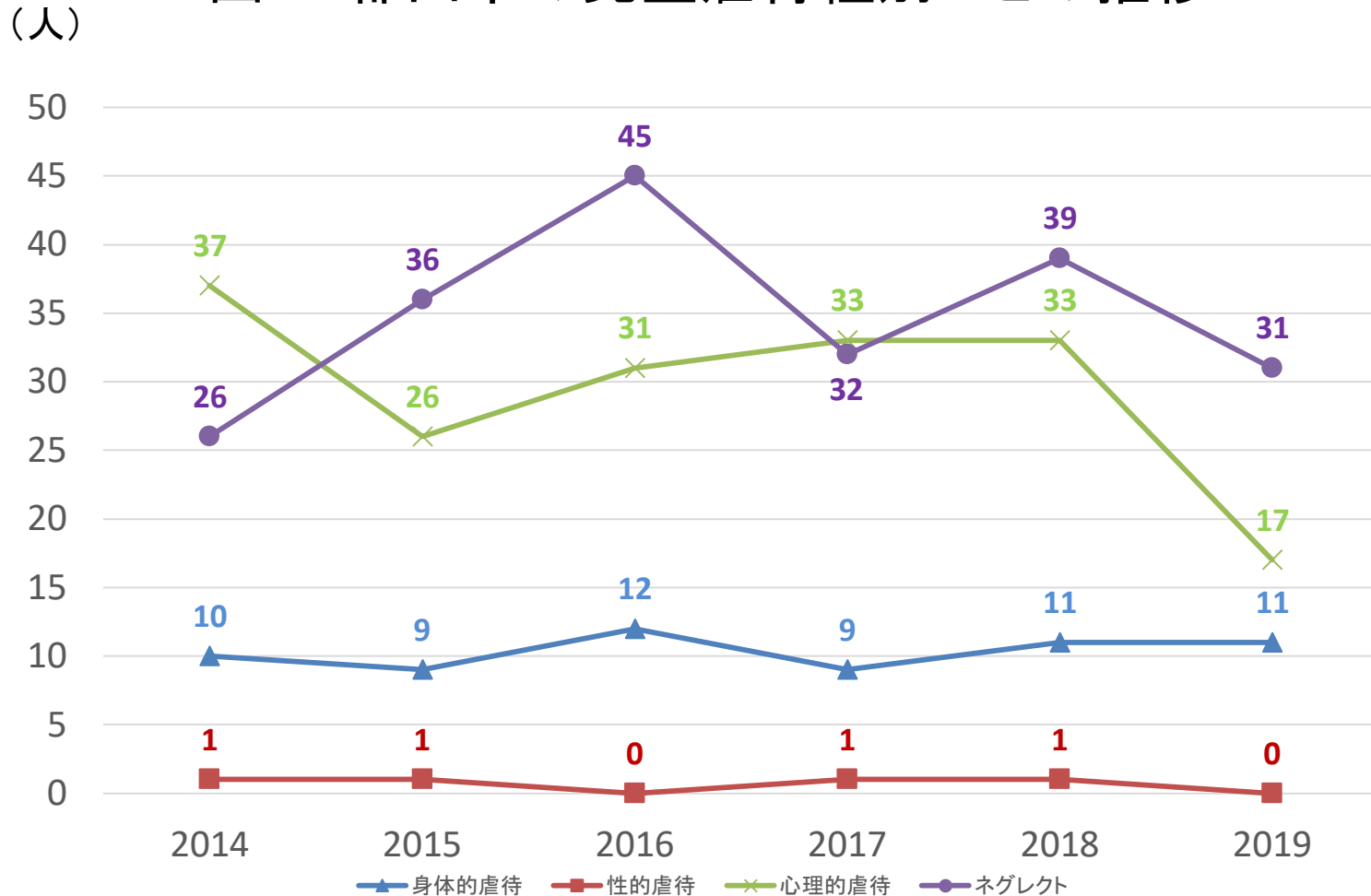
図6 人口10万人当たりの児童虐待相談件数推移



出典：厚生労働省「2014～2019年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
こども家庭相談センター「2014～2019年度 相談等の取扱件数推移」

特徴⑥ 児童虐待は心理的虐待とネグレクトが多い。

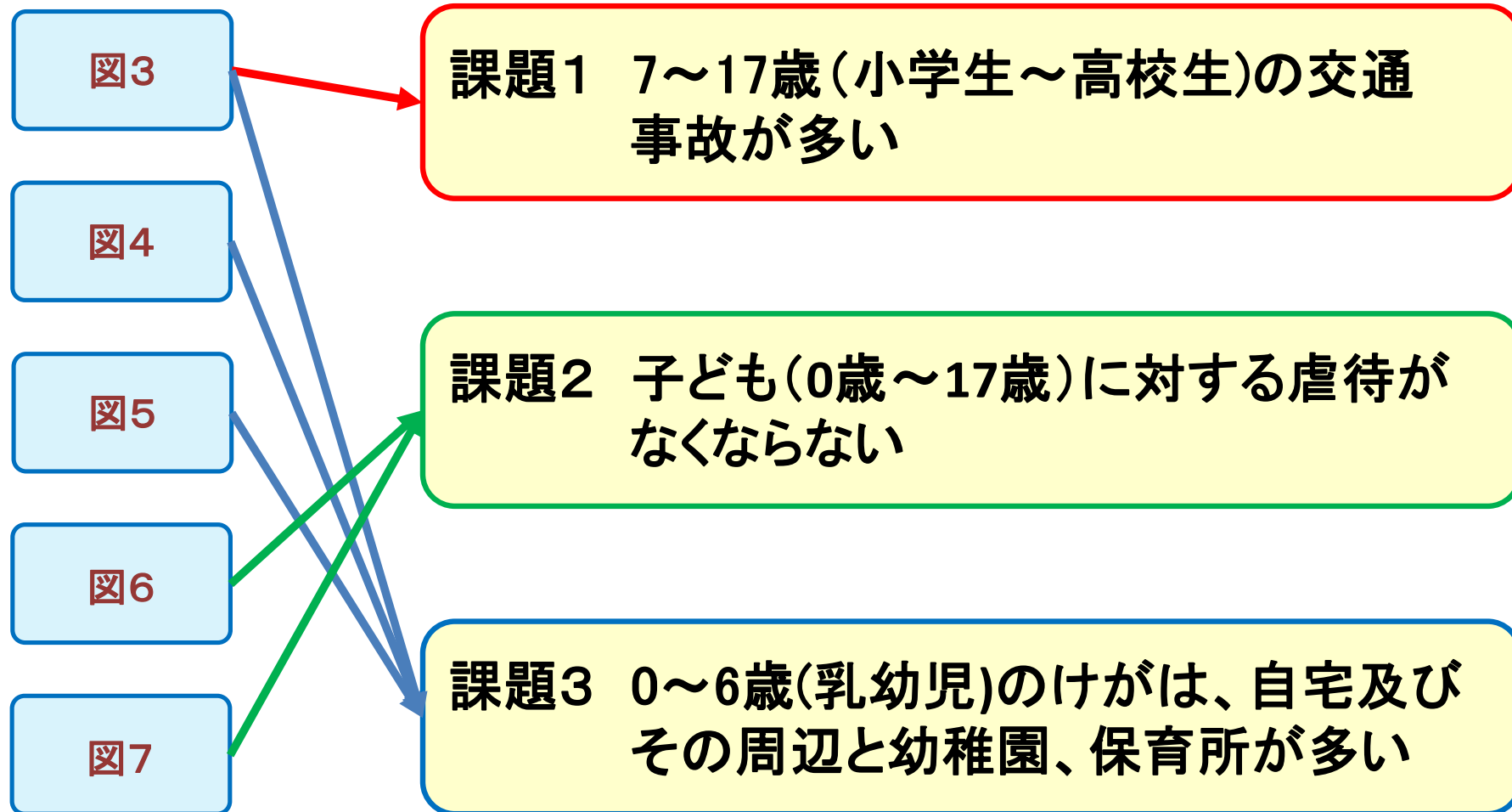
図7 郡山市の児童虐待種別ごとの推移



出典：こども家庭相談センター「2014～2019年度 相談等の取扱件数推移」

重点課題の選定(継続)

図8



国・県・警察、市、地域別の現在の取組み(継続)

図9

		国・県・警察	市	地域
課題① 7～17歳(小学生～高校生)の交通事故が多い	環境改善	道路環境の改善		
	規則・罰則			
	教育・啓発	悪質違反者講習	交通安全教室	通学路安全指導 課題1 取組①
課題② 子どもに対する虐待がなくなる	環境改善	子育て支援・保育施設の機能充実		見守り活動
	規則・罰則	罰則強化	通報・連絡	
	教育・啓発	啓発・相談窓口の広報		課題2 取組①、②
課題③ 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	環境改善	施設の改善・従事者数の適正化		
	規則・罰則			
	教育・啓発	啓発		けがをしない体づくり 課題3 取組①、②

インターネットやテレビ、子育て情報誌等の情報
子育て世代の交流による事故情報の共有

既存の取組み

【道路環境の改善】

国、県、市、警察、学校、地域団体との協働による通学路の安全点検



【啓発・相談窓口の広報】

児童虐待相談ダイヤルのチラシ配布

【啓発・相談窓口の広報】

児童虐待防止に関する街頭活動



既存の取組み

【啓発】

けがや事故が起きやすい状況を再現した「事故予防モデルルーム」の設置



【けがをしない体づくり】

子どもの体力・運動能力を向上させるための運動あそびの実施



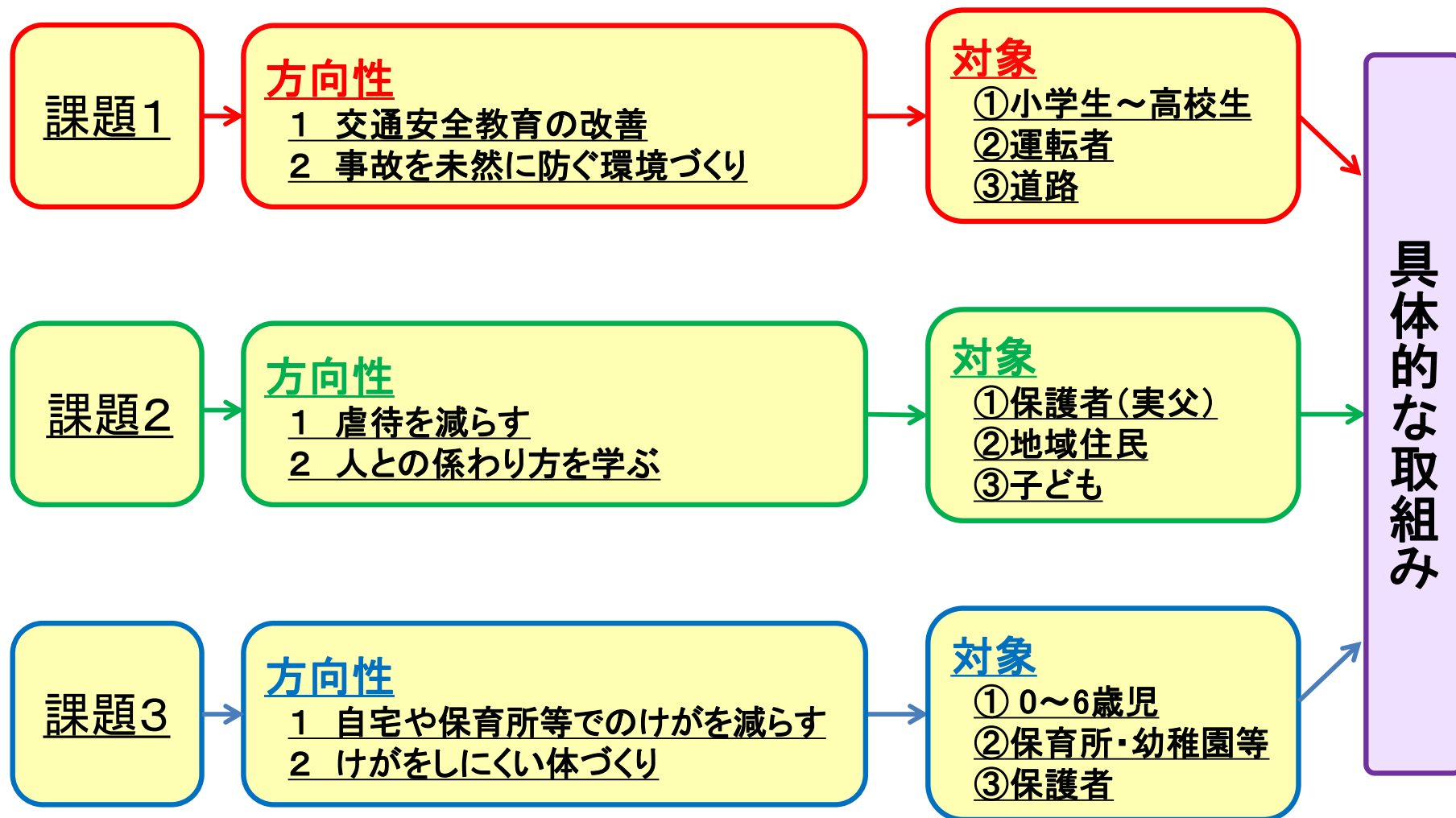
既存の取組み

子どもの体力・運動能力を向上させるための遊び場の整備



重点課題に対する方向性、重点対象

図10



重点課題に対する取組み（継続）

図11

課題1

取組① 「交通事故多発地点マップ」の配布
【交通安全対策委員会と協働】

課題2

取組① 児童虐待防止の啓発DVD貸出し

取組② 団体・企業へ出向き「児童虐待防止講座」を開催

課題3

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを
周知するチラシの配布

取組② 自宅での事故防止に関する講習会の開催
【郡山地方広域消防組合と協働】

課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

取組① 交通事故多発地点マップの配布

内容

交通安全対策委員会との協働取組として、保育所や幼稚園を通じて、運転者でもある子どもの保護者に対して「交通事故多発地点マップ」を配布する。

方向性

②事故を未然に防ぐ環境づくり

対象

②運転者

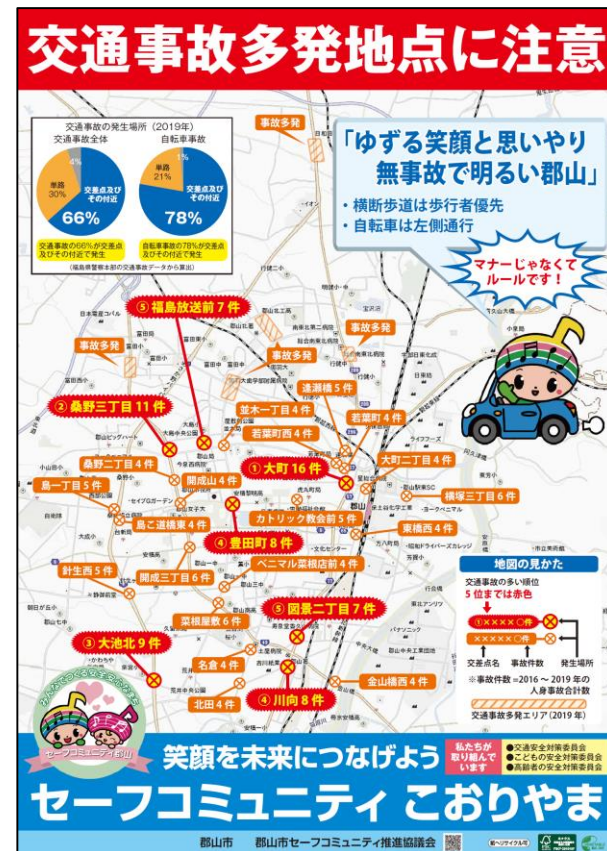
実施主体

こどもの安全対策委員会
交通安全対策委員会

活動指標

配布先数: 9施設

配布部数: 約2,000部



課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

取組① 交通事故多発地点マップの配布

効果検証方法

交通事故多発地点マップ配布時にアンケートを実施
(アンケート回答期間:2021年8月30日～9月13日)

図12 事故が多く発生している場所の認知度

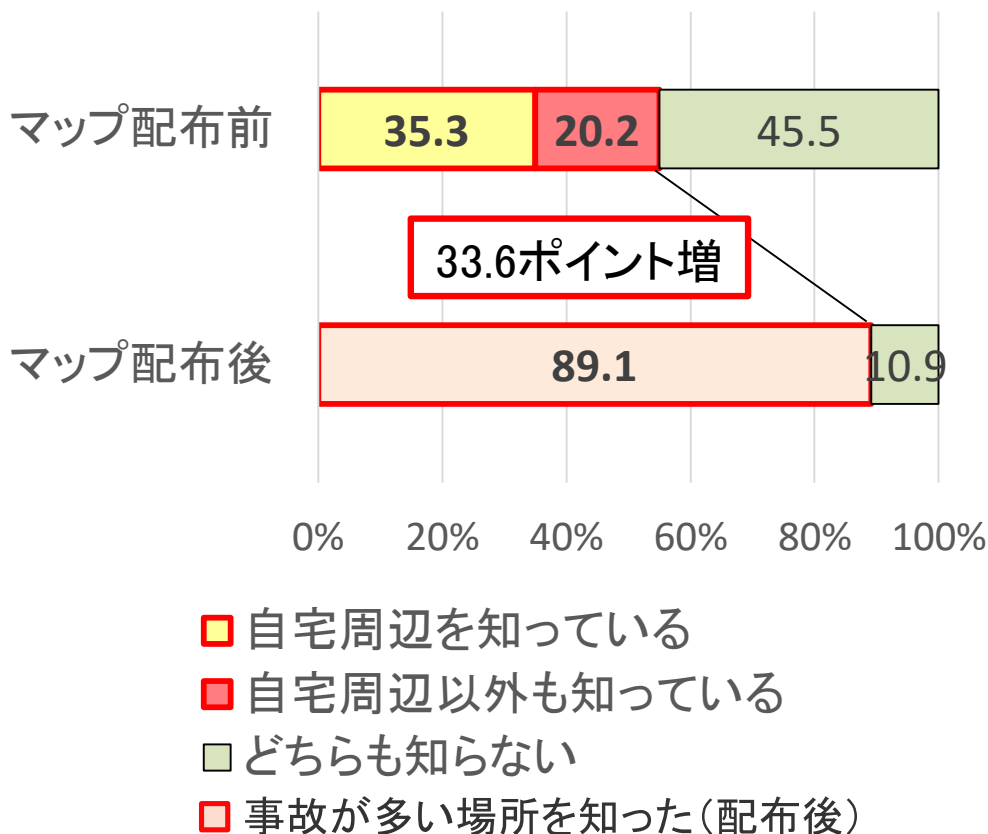
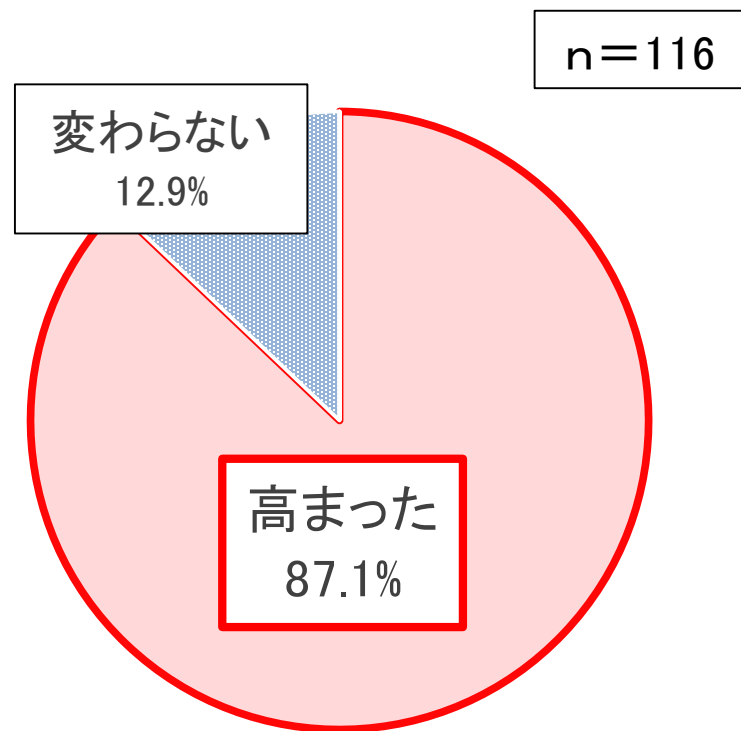


図13 交通安全意識の変化



課題2 子どもに対する虐待がなくなる

取組① 児童虐待防止の啓発DVD貸出し

内容

子育てや福祉に関係する団体を対象に、児童虐待の現状や「しつけ」と「虐待」の違い等について学ぶのに役立つDVDの貸し出しを行う。

方向性

①虐待を減らす

対象

②地域住民
(主に子ども関係団体を想定)

実施主体

郡山市

活動指標

貸出回数、視聴者数

貸出DVD



課題2 子どもに対する虐待がなくなる

取組② 団体・企業へ出向き「児童虐待防止講座」を開催

内容

郡山市が、市民からの要請を受け様々な内容の講座を実施する「出前講座」のメニューに「みんなの力で防ごう児童虐待」を追加し、団体・企業等へ出向き、普段、子育て教室等に出席できない父親や地域住民に対し講座を開催した。

方向性

①虐待を減らす

対象

①保護者

②地域住民

(主に子ども関係団体を想定)

実施主体

郡山市

活動指標

開催回数: 1回(更に1回予定)

参加者数: 13名

令和3年度 市政きらめき出前講座
みんなの力で防ごう児童虐待!
~子どもの生命と安全の確保は何よりも優先されます~

郡山市こども部こども家庭支援課こども家庭相談センター

(1) 児童虐待
○児童虐待(児童を現に虐待している、または虐待をいう。)に
身体的虐待
溺れさせる、
性的虐待
する、など
ネグレクト(児童を放置する、病気になるまで病院に連れて行かない、など)
心理的虐待: 言葉による脅し、無視、兄弟間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(面前DV)、など

課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知する チラシの配布

内容

自宅での事故を防止するためのチェックリストと、市が設置している子育て支援施設「ニコニコこども館」にある「事故予防モデルルーム」の案内を掲載したチラシを、保育所・幼稚園に通う子どもの保護者に対して配布する。

方向性

① 自宅や保育所等でのけがを減らす

対象

③ 保護者


実施主体

こどもの安全対策委員会

活動指標

配布先数：155施設

配布部数：約14,000部



あなたの自宅は大丈夫？
自宅内での事故から子どもを守ろう！

子どもの一般傷病事故の状況


子ども(0～12歳)が救急搬送された場所

住宅 64.7%


救急搬送された子どもの事故種別

転倒(転ぶ) 29.0%


※一般傷病事故とは、交通事故など以外に原因をたどらない一般の負傷や、転倒、転落、やけど、熱傷などをいいます。
※転落：転落した高さ(床から)が1メートル以上で子どもが重傷を負った場合を指します。



<窓やベランダからの転落に注意！>
窓やベランダの近くに踏み台になるもの（ソファや窓外機など）を置かないようにしましょう。窓に指を絡まじり、ベランダへの出入口のカギをお子さんが外せないように対策をしましょう。





<ブラインドのひもによる窒息に注意！>
ブラインドやカーテンのひもが指に絡まじり、子供の指が指がつかない所にため、ソファなど踏み台になるものを近くに置かないようにしましょう。ひもがない安全性の高い商品を選びましょう。



<ドアの開閉による指はさみに注意！>
ドアの開閉時には子どもが近くにいるかよく確認しましょう。ドアのちよっつがい部分に防閉防止カバーを付けるなど安全対策をしましょう。

自宅での子どもの事故を防ごう！ニコニコこども館「事故予防モデルルーム」

ニコニコこども館の4階に、自宅での事故が起こりうる状況を再現した「事故予防モデルルーム」があることをご存知ですか？ぜひ一度、お立ち寄りください！




子どもの事故防止・チェックリスト

住宅（自宅）での子どもの事故は、親の注意や環境づくりによって防ぐことができます。ご家庭で事故防止ができていますかチェックしてみましょう！

1歳6ヶ月ごろ		3歳ごろ	
項目	チェック	項目	チェック
1 子どもを1人で客中庭に残していない	<input type="checkbox"/>	1 子どもを1人で客中庭に残していない	<input type="checkbox"/>
2 畳に寝るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて載せている。	<input type="checkbox"/>	2 畳に寝るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて載せている。	<input type="checkbox"/>
3 浴槽に水をためたまにしない	<input type="checkbox"/>	3 浴槽に水をためたまにしない	<input type="checkbox"/>
4 靴、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>	4 靴、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>
5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>	5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>
6 ヒートアップ機能は子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>	6 ヒートアップ機能は子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>
7 暖房器具（ストーブ、こたつなど）の熱が直接触れないようにしている。	<input type="checkbox"/>	7 ストーブやヒーターなどは、安全蓋で覆い、直接触れないようにしている。	<input type="checkbox"/>
8 ポットややかんは、子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>	8 ポットややかんは、子どもの手の届かないところに置いている。	<input type="checkbox"/>
9 ページ用品やおもちゃを誤入すること、デザインや材質を重視している。	<input type="checkbox"/>	9 すべり台やブランコの安全な乗り方を教えている。	<input type="checkbox"/>
10 階段に転倒防止柵を取り付けている。	<input type="checkbox"/>	10 階段に転倒防止柵を取り付けている。	<input type="checkbox"/>

子どもの事故防止ハンドブック・カレンダーをご活用ください！

消費者庁の「子どもを事故から守る！事故防止ポータル」から「事故防止ハンドブック」や「事故防止カレンダー」のダウンロードができますので活用ください。

【発行：熊山市セーフコミュニティ推進委員会「こどもの安全対策委員会」】

課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

効果検証方法

子どものけが・事故防止等チラシ配布前後にアンケートを実施
(事前:2020年2月9日～28日、事後:2020年3月9日～31日)

図18 自宅内で子どもの事故防止策を実施している人の割合

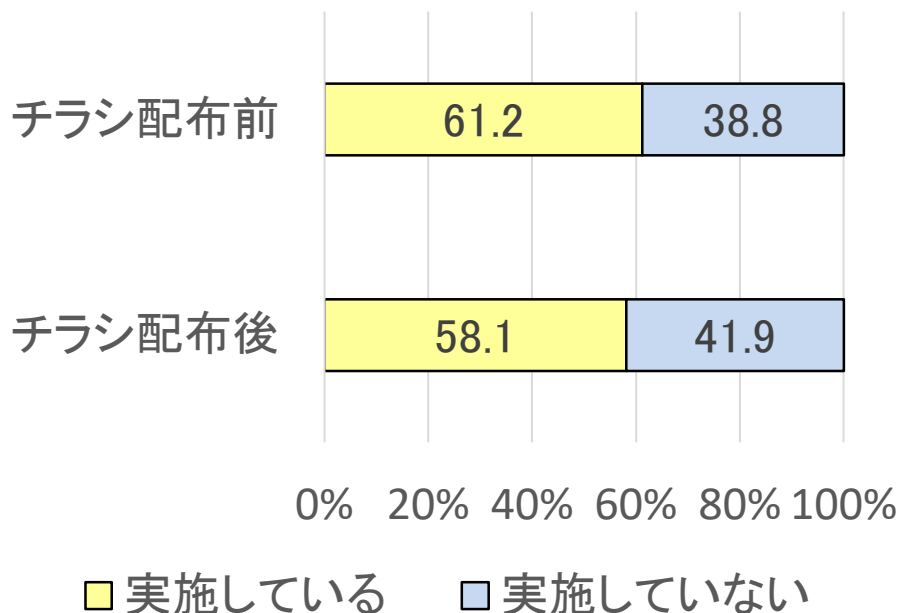
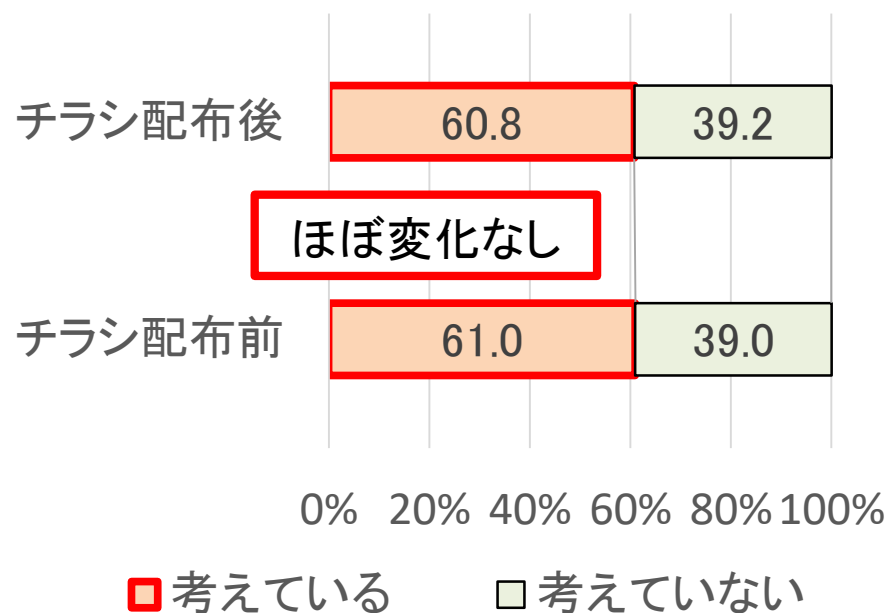


図19 「事故予防モデルルーム」に対する意識変化



課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

図20 事故予防モデルルームの認知度

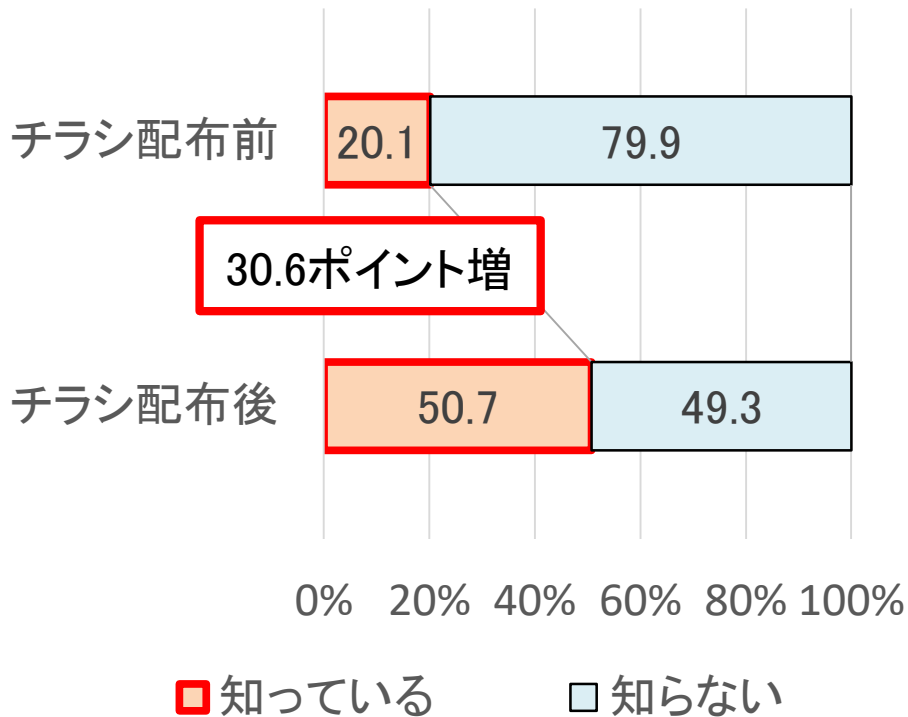
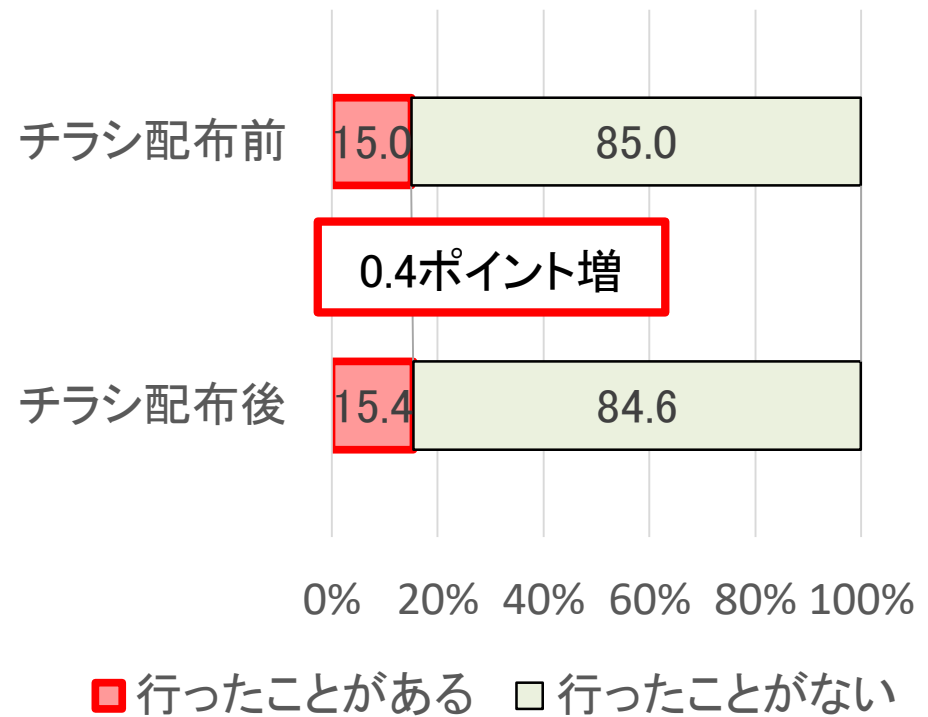


図21 事故予防モデルルームに、実際に行ったことがある人の割合



課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

取組② 自宅での事故防止に関する講習会の開催

内容

郡山地方広域消防組合と郡山市が協働し、「事故予防モデルルーム」を活用して、救急救命士が自宅でのけがや事故の予防法や危険箇所についての講習を行うことで、子どものけがや事故の予防に関する意識を高める。

方向性

- ①自宅や保育所等でのけがを減らす

対象

- ①0～6歳児、③保護者

実施主体

郡山市
郡山地方広域消防組合

活動指標

開催回数
参加者数

【現時点での取組状況】

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため
2020、2021年とも開催中止



【代替策の検討】

- ・集団検診や子育て教室等で「事故予防モデルルーム」のあるニコニコこども館に来館する子どもと保護者に向けて周知を行う

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
7～17歳の交通事故が多い	交通事故多発地点マップ配布 9施設 約2,000部	事故多発地点の認知度の向上 配布前: 55.5% ↓ 配布後: 89.1%	交通安全意識の高まり 「高まった」と回答した者: 87.1%	子どもの交通事故の発生件数の減少

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
子どもに対する虐待がなくなる	児童虐待防止の啓発DVD貸出し (調整中)	児童虐待行為の認知度の向上 意識調査 アンケート予定	児童虐待防止に関する意識の高まり	児童虐待に関する相談件数の増加
	「児童虐待防止講座」を開催 開催: 1回 予定: 1回	児童虐待行為の認知度の向上 意識調査 アンケート予定	児童虐待防止に関する意識の高まり	

取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
<p>0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い</p>	<p>子どもの事故防止等チラシ配布</p> <p>155施設 約14,000部</p>	<p>事故予防モデルルームの認知度の向上</p> <p>配布前：20.1% ↓ 配布後：50.7%</p>	<p>自宅での事故防止対策の実施割合の向上</p> <p>配布前：61.2% ↓ 配布後：58.1%</p>	<p>自宅とその周辺、幼稚園、保育所でのけがの発生件数の減少</p>
	<p>事故防止講習会開催</p> <p>〔代替策検討中〕</p>	<p>自宅での危険箇所の認知度の向上</p>		

取組後の変化と問題点

重点課題	取組後の変化	現状の問題点
7～17歳の交通事故が多い	<p>交通事故多発地点の認知度が上がった</p> <p>交通安全に対する意識が高まった</p>	<p>事故多発地点を知らない人が意外に多い。</p>
子どもに対する虐待がなくなる	<p>児童虐待防止に関する意識が高まった</p>	<p>どのような行為が虐待になるのかを既に知っている人が意外に多い。</p> <p>視覚的な周知は効果的である。</p>
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	<p>自宅での事故防止に対して意識する人の割合は変わらない</p> <p>事故予防モデルルームの認知度が上がった</p>	<p>自宅で子供の防止策を実施した割合が変わらなかった。</p> <p>実際に事故予防モデルルームを訪れた割合が伸びなかった。</p>

現時点での問題を踏まえた今後の方向性

課題	現時点での問題点	今後の方向性
7～17歳の交通事故が多い	交通事故多発地点において、ハード・ソフトの両面から、どのような対策をとれるか	交通事故多発地点における事故件数の減少につながる取組の検討
子どもに対する虐待がなくなる	妊娠中の親へどのように虐待行為の周知を図っていくか	<p>児童虐待防止講座の効果的な周知方法についての検討</p> <p>児童虐待防止DVDを妊娠中の親に上映できる機会の検討</p>
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	取組により意識や認知度が高まっても、実際の事故対策などに結び付いていない。	<p>保護者に事故防止グッズを配布し、自宅での事故対策を行う最初の第一歩につなげる</p> <p>ニコニコこども館の来館者に、事故予防モデルルームに来てもらう取組</p>

御清聴ありがとうございました。

